



The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers

電子情報通信学会 特別号 April 2019

情報・システムソサイエティ誌

IEICE INFORMATION AND SYSTEMS SOCIETY JOURNAL

平成 31 年度ソサイエティ活動

情報・システムソサイエティ次期会長

前田 英作

東京電機大学



情報・システムソサイエティ(以下, ISS)は, 情報処理に関わる技術についてその基礎から応用に至るまで幅広い分野を対象としています。ISS には現在約 11,000 名の会員があり, 3 万人を越える電子情報通信学会の中で最大規模のソサイエティです。

本ソサイエティの役割は, 会員に研究発表と交流の場を提供し, 重要な社会基盤である情報技術分野の持続的な発展と情報社会における様々な課題の解決に貢献することにあります。学術研究を取り巻く社会環境や情報技術の位置づけが大きく変化している中で, 本学術分野における ISS 会員の活動を支援するための組織として, その役割を果たしていきます。2019 年度は, 以下の内容に重点を置いて活動を展開します。

(1) 論文誌の価値向上

論文は学術研究の最終成果であり, その内容をできるだけ多くの人々に知ってもらうことによって研究成果の価値が生まれます。したがって, 良質の投稿論文を多く集め, 適切な査読を経た上で, 多くの人に読んでもらえる論文誌であるべきです。そこで, 英文誌(ED)では, 2017 年 1 月より他ソサイエティに先がけて, 過去の発行論文を含めた全論文の無料公開を始めました。その結果, 論文データベースへのアクセス数が大幅に増加するとともに, impact factor と h-index も向上しつつあります。オープンアクセスの維持のためには投稿数の増加が必須であり, そのための方策を検討しています。また, 英和両論文誌ともに編集委員, 査読委員の増員など論文誌の質向上にも取り組んでいます。

(2) 研究会の活性化

2018 年度から技報の完全電子化と参加費有料化を実施しました。それに伴い, 資料を電子的にダウンロードできるようになるとともに, 学会全体の全研究会パッケージの年間登録も安価に利用できるようになりました。

さらに, ISS 分野においては, 基盤的学問の追究と産

業応用との連携が従来にも増して重要になっています。そこで, 企業との連携を深めつつ研究会の活性化を図るための施策として, スポンサーシップ制度を導入しました。研究会における特別企画等のイベント, 国際会議の主催・共催による国際化など各学術領域の活性化のために是非活用ください。

(3) 交流の場としての総合大会と FIT

総合大会, FIT は広い情報分野の研究者での意見交換や学生の研究発表の場として有効です。2018 年の総合大会, FIT でも 400 件を越える発表がありました。総合大会の学生ポスターセッションは盛況で, このセッションだけで, 毎年 200 件以上の発表があります。また, ソサイエティ横断のウエルカムパーティなどの交流の企画も実施されており, 他分野の研究者, 企業関係者との情報交換の場となっています。

(4) ソサイエティ誌による広報活動

ソサイエティ誌は, ISS の広報誌として位置づけられてきました。ISS 全体の活動を多くの会員に知ってもらうための身近な情報誌としての役割を果たしています。現在のを継続・充実しながら, より時代に即した形態を模索していきます。

以上のように, ISS では会員サービスの向上を目指した様々な取り組みを進めています。ISS の運営方針や具体的施策については, 会長, 次期会長, 副会長 4 名, 幹事 8 名, 和文論文誌・英文論文誌・ソサイエティ誌の各編集委員長で構成する運営幹事会とそれに研究専門委員会委員長を加えた拡大運営委員会において議論した上で決めていきます。2019 年度より技術会議担当幹事を 2 名増員して 4 名とし, ISS の多様な活動に十分な対応ができるよう体制を強化しました。

ISS の活動を通じて素晴らしい成果を発表し, 多くの会員にお伝えいただければと思います。また, 運営へのご意見があれば, ぜひお寄せください。

情報・システムソサイエティ誌とは？

情報・システムソサイエティが1996年度より年4回発行しているソサイエティ会員向けの情報誌です。

内容は、ソサイエティからのお知らせ、研究専門委員会の動向、研究室紹介、フェローの方々による寄稿、連載コラムなど、会員の皆様の役に立つ情報を満載しております。

特に、毎号の巻頭言には、電子情報通信分野の著

者の方々から寄稿を頂き、好評を博しております。今後も学生や企業の方などより幅広い方々に役立てて頂けるよう、ますます内容の充実を図る予定です。

情報・システムソサイエティ誌は、情報・システムソサイエティに登録をすれば自動的に送付されます。以下でも更に詳しく御紹介します。

ISS 達人へのステップ 1

情報・システムソサイエティ (ISS) への登録を

電子情報通信学会では1995年4月よりソサイエティ制になり、会員はいずれかのソサイエティに属することになっています。

これから学会に入会される方はもちろん、複数のソサイエティへの登録を希望される方も、ぜひISSに御登録下さい。なお、複数に登録する場合のISSソサイエティ

誌及びオンラインジャーナル購読の追加登録料は3,500円(学生は2,000円)です。ISSへの追加登録を御希望の方は、早急に下記の様式で御連絡下さい。

購読のほかにISSの様々な特典が利用できます。また、ISS論文誌を購読する場合はステップ2を参照して下さい。

ISS 達人へのステップ 2

情報・システムソサイエティ (ISS) の論文誌は和英2種類

基本登録でオンラインジャーナル(和・英論文誌)の閲覧が可能です。追加登録を御希望の方は早急に下記の様式で御連絡下さい。

なお、和文論文誌D及び英文論文誌Dのキーワードは下記のとおりです。

キーワード：

情報・システム基礎／計算機システム／ソフトウェアシステム／ソフトウェア工学／データ工学、Web情報システム／情報ネットワーク／ディペンダブルコンピューティング／人工知能、データマイニング／ヒューマンコンピュータインタラクション／オフィスインフォメーションシステム、e-ビジネスモデリング／教育工学／福祉工学

パターン認識／音声、聴覚／画像・映像処理／画像認識、コンピュータビジョン／コンピュータグラフィックス／マルチメディア処理／自然言語処理／バイオサイバネティクス、ニューロコンピューティング／生体工学／音楽情報処理／感性情報処理

連絡先： E-mail: kaiin2@ieice.org Phone: 03-3433-6691(ガイド番号:1) Fax: 03-3433-6659

名 前 (会員番号)
所 属
連絡先 〒
Phone: Fax: E-mail:
ISS ソサイエティ追加 (オンラインジャーナルとソサイエティ誌)

*なお、オンラインジャーナルの閲覧は登録処理後からとなります。
(現在、英文論文誌Dはオープンアクセス化を実施中です。)

ISS 達人へのステップ3

情報・システムサイエティ (ISS) 所属研究会の年間登録を

ISSには23の研究専門委員会があり、それぞれが活発に研究会（第一種研究会）を開催しています。研究会は、タイムリーに研究内容を発表したり、最新の技術情報を得たりするための非常に有力な手段です。ISSでは、平成30年度、合わせておよそ2,000件もの発表が行われました。どうぞ積極的にご活用ください。

これらの研究会への参加は有料で、各研究会・開催回ごとに参加費がかかります（表1）。しかし、年間に数回以上参加される予定の方や、参加できなくても資料（技術研究報告、略して技報といいます）はダウンロードしたいという方は、ご自身の分野の研究会への年間登録、または、ISSの全ての第一種研究会への一括参加登録が便利です（表2）。これらの登録をして頂くと、当該年度の当該研究会の全てに参加できる上、当該年度・当該研究会の技報の全てをダウンロードすることも可能になります。このメリットを享受するには、技報オンラインシステム (<https://www.ieice.org/ken/user/>) からユーザ登録し（既登録の場合は不要）、[技報完全電子化]参加費・年間登録費のお支払い/ダウンロード権の購入からご登録ください。

各研究会の研究分野の詳細については<https://www.ieice.org/jpn/kensenmon4.html>をご覧ください。

表1：研究会参加費（会員の場合）

	オンライン申込（税別）		当日現金払（税込）	
	会員	非会員	会員	非会員
一般	2,500 円	3,500 円	3,000 円	4,000 円
学生（注）	設定なし	1,000 円	500 円	2,000 円

注：学生で技報電子ファイル不要の場合は、参加費は無料です。

表2：研究会年間登録費

研究会（記号）	登録費（税別）	委員長
ME とバイオサイバネティクス(MBE)	8,000 円	京相 雅樹(京都市大)
ライフインテリジェンスとオフィス情報システム(LOIS)	8,000 円	山田 智広(NTT)
画像工学(IE)	8,000 円	浜本 隆之(東京理科大)
言語理解とコミュニケーション(NLC)	6,000 円	榊 剛史(ホットリンク)
コンピュータシステム(CPSY)	8,000 円	中野 浩嗣(広島大)
コンピューテーション(COMP)	6,000 円	藤戸 敏弘(豊橋技科大)
人工知能と知識処理(AI)	6,000 円	峯 恒憲(九大)
ソフトウェアサイエンス(SS)	6,000 円	中田 明夫(広島市立大)
データ工学(DE)	6,000 円	灘本 明代(甲南大)
パターン認識・メディア理解(PRMU)	8,000 円	佐藤 真一(NII)
ディペンダブルコンピューティング(DC)	8,000 円	福本 聡(首都大東京)
ニューロコンピューティング(NC)	8,000 円	平田 豊(中部大)
知能ソフトウェア工学(KBSE)	6,000 円	糸野 文洋(日本工大)
音声(SP)	8,000 円	山下 洋一(立命館大)
教育工学(ET)	8,000 円	宮寺 庸造(東京学芸大)
医用画像(MI)	8,000 円	森 健策(名大)
ソフトウェアインタプライズモデリング(SWIM)	4,000 円	荻野 正(明星大)
リコンフィギュラブルシステム(RECONF)	6,000 円	本村 真人(北大)
情報通信システムセキュリティ(ICSS)	8,000 円	白石 善明(神戸大)
情報論的学習理論と機械学習(IBISML)	8,000 円	鹿島 久嗣(京大)
マルチメディア情報ハイディング・エンリッチメント(EMM)	8,000 円	岩村 恵市(東京理科大)
クラウドネットワークロボット(CNR)	6,000 円	小野 哲雄(北大)
サービスコンピューティング(SC)	4,000 円	中村 匡秀(神戸大)
上記の全ての研究会への一括参加登録	15,000 円	

FIT2019 第18回情報科学技術フォーラム

選奨論文・一般論文 講演募集案内



【会期】2019年9月3日(火)～5日(木)

【会場】岡山大学 津島キャンパス (岡山市北区津島中1-1-1)

FIT2019 Web ページ <https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2019/>

受付期間：2019年4月2日(火)～5月8日(木)

電子情報通信学会 情報・システムソサイエティならびにヒューマンコミュニケーショングループは、情報処理学会と合同で、2002年から毎年秋季に「情報科学技術フォーラム(FIT: Forum on Information Technology)」を開催しており、2019年9月に第18回目を岡山大学で開催します。

FIT2017より「査読付き論文」を廃止し選奨論文制度を導入しました。論文の種類は、「選奨論文」と「一般論文」があり、「選奨論文」の中から、船井ベストペーパー賞及びFIT論文賞を、「一般論文」の中からFIT奨励賞を選定し表彰します。また、論文の種類に関わらず、若手研究者を対象に優れた発表をした方を選定し、FITヤングリサーチャー賞として表彰します。

【FIT論文表彰制度】

船井ベストペーパー賞	選奨論文の中からFIT学術選定委員会で審査の上、3件選定 賞金は船井情報科学振興財団より20万円贈呈
FIT論文賞	選奨論文の中からFIT学術選定委員会で審査の上、7件程度選定 賞金はFIT運営委員会より5万円贈呈
FITヤングリサーチャー賞	2019年12月31日現在で33歳未満の講演者の中から、特に優れた発表をされた方を選定 賞金はFIT運営委員会より3万円贈呈
FIT奨励賞	一般論文のセッション毎に座長の裁量で優秀な発表を1件その場で選定(該当なしもあり) FIT後に賞状贈呈

多彩なイベントが企画され広範な分野の研究者が一堂に会する本フォーラムは、皆様にすばらしい研究成果発表と最新の情報収集の場を提供します。詳細は逐次上記「FIT2019 Web ページ」に掲載いたします。

○● 電子情報通信学会 情報・システムソサイエティ誌編集委員会 ●○

●副会長(編集会議担当)

峯松 信明(東大 mine@gavo.t.u-tokyo.ac.jp)

●編集委員長

神原 誠之(奈良先端大 kanbara@is.naist.jp)

●編集幹事

金子 晴彦(東工大 kaneko@c.titech.ac.jp)

大塚 真吾(神奈川工科大 otsuka@ic.kanagawa-it.ac.jp)

●特任編集幹事

菅谷 史昭(KDDI 研 fsugaya@kddilabs.jp)

松居 辰則(早大 matsui-t@waseda.jp)

宮崎 修一(京大 shuichi@media.kyoto-u.ac.jp)

坪下 幸寛(富士ゼロックス Yukihito.Tsuboshita@fujixerox.co.jp)

門田 啓(NEC a-monden@bk.jp.nec.com)

篠崎 隆宏(東工大 shinot@ict.e.titech.ac.jp)

林 良一(NTT hayashi.ryoichi@lab.ntt.co.jp)

●企画広報幹事

富森 英樹(富士通研 tomimori.hideki@jp.fujitsu.com)

●和文論文誌編集副委員長

鈴木 伸崇(筑波大 nsuzuki@slis.tsukuba.ac.jp)

●英文論文誌編集副委員長

高間 康史(首都大東京 ytakama@tmu.ac.jp)

●編集委員

堀瀬 友貴(東京女子医大 horise.yuki@twmu.ac.jp)

渡部 智樹(NTT tomoki.watanabe.cd@hco.ntt.co.jp)

高橋 桂太(名大 keita.takahashi@nagoya-u.jp)

坂地 泰紀(東大 sakaji@sys.t.u-tokyo.ac.jp)

木村 睦(龍谷大 mutsu@rins.ryukoku.ac.jp)

脊戸 和寿(成蹊大 seto@st.seikei.ac.jp)

太田 唯子(富士通研 yuiko@jp.fujitsu.com)

島 和之(広島市立大 shima@hiroshima-cu.ac.jp)

大塚 真吾(神奈川工科大 otsuka@ic.kanagawa-it.ac.jp)

田村 雅人(日立 masato.tamura.sf@hitachi.com)

金子 晴彦(東工大 kaneko@fuji.cs.titech.ac.jp)

橋 完太(工学院大 kanta@cc.kogakuin.ac.jp)

橋浦 弘明(日本工業大 hashiura@nit.ac.jp)

滝口 哲也(神戸大 takigu@kobe-u.ac.jp)

中山 祐貴(早大 nakayama@aoni.waseda.jp)

平野 靖(山口大 yhirano@yamaguchi-u.ac.jp)

五月女 健治(法政大 saotome@hosei.ac.jp)

宮島 敬明(JAXA miyajima.takaaki@jaxa.jp)

恐神 貴行(IBM 東京基礎研究所 OSOGAMI@jp.ibm.com)

日置 尋久(京大 hioki@i.h.kyoto-u.ac.jp)

神原 誠之(奈良先端大 kanbara@is.naist.jp)

細野 繁(東京工科大)

河野 義広(東京情報大 ykawano@rsch.tuis.ac.jp)

上原 稔(東洋大 uehara@toyo.jp)